様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ０５６００・１９Ｋ２０８０７

研究課題名（和文）『封神演義』版本研究――主要版本における本文の継承関係と出版背景の考察

研究課題名（英文）Research on the printed edition of "Fengshen Yanyi"

研究代表者
岩崎　華奈子（IWASAKI, KANAKO）

九州大学・人文科学研究院・助教

研究者番号：３０８２２８８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：(1) 版本間の継承関係の解明：『封神演義』の主要な版本について校勘を行い、その関係性を考察した。その結果、従来四雪草堂本と呼ばれ一括りにされていた清籟閣本・本衙蔵板本・濱文庫本は各々特徴を有し、それぞれ未発見のテキストから派生、あるいは参照した可能性があることを指摘した。
(2)『封神演義』出版背景の考察：『封神演義』序文撰者の周之標は、万暦44～順治10年(1616～1653)の間、蘇州を中心に戯曲・散曲集や科挙受験参考書の編纂者として活動していたことが判明した。またその序文の主旨は、本小説に描かれた殷周革命の物語から明代末期の現実的社会問題を想起し、論じるものであると結論づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
『封神演義』の主要版本について、本文の精密な検討と版本間の関係を概ね明らかにしたことで、本小説の文学的研究の基礎を固めることができた。また、周之標序の精読や撰者の事績調査を通して、刊行の時期・場所を推定し得たことは本小説の成立過程の研究において重要な成果と言える。加えて当時の出版者・読者が本小説をどのように捉えていたかを考察した点は、明代末期に隆盛した通俗白話小説の出版と読書態度の一例を示すものである。

研究成果の概要（英文）：(1) Clarification of the inheritance relationship between editions: We conducted a proofreading of the major editions of "Fengshen Yanyi" and examined the relationship between them. As a result, we pointed out that the Qinlaige edition, the Benyacanban edition, and the Binwenku edition, which were previously referred to as "Sixuecaotang edition" and lumped together, each have their own characteristics, and each may have been derived from or referred to an undiscovered text and revised its characters.
(2) Discussion of the background of the publication of "Feng Shen Yanyi": The author of the preface, Zhou Zhibiao, was found to have been active as a compiler of plays, prose pieces, and reference books for the National Examination mainly in Suzhou during the period of Wanli 44 to Shunzhi 10 (1616 to 1653). We conclude that his preface recalls and discusses realistic social problems of the late Ming dynasty from the story of the Shang and Zhou revolutions depicted in this novel.

研究分野：中国文学

キーワード：封神演義　版本　出版　周之標　馮夢龍　戯曲

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

『封神演義』は明代末期（16 世紀末～17 世紀前半）に成立した全 100 回の章回小説[1]である。紀元前 11 世紀に起こった殷周革命に題材を採り、神仙妖怪を多数登場させ、術や宝物による戦闘を描いた作品で、中国だけでなく朝鮮半島や日本、東南アジアにも広く普及し、現代においても享受され続けている。しかし学界における本小説の文学的評価は低く、研究状況は十分とは言えない。とりわけ、研究の基礎となるテキストの問題が長らく等閑視されてきた。

現存する『封神演義』版本のうち、国立公文書館所蔵の舒本が最も古い明代の刊本と目され、研究や翻訳において重要視されている。しかし、従来その刊刻時期や出版の経緯、および本文の検証は十分には行われていなかった。その他の版本についても、本文の字数の多寡により文繁本と文簡本[2]の二種に分類できることは知られていたが、版本間の関係はほとんど解明されていなかった。

本研究の開始時における先行研究は次のとおり。まず孫楷第『日本東京所見小説書目提要』（国立北平図書館、1932 年）、同『中国通俗小説書目』（国立北平図書館、1933 年）、大塚秀高『増補中国通俗小説書目』（汲古書院、1989 年）がある。これらは日本や中国の図書館・博物館等に蔵される通俗小説の版本を網羅的に調査・整理した目録である。『封神演義』諸版本に関する研究としては、尾崎勤「『封神演義』の簡本について」（『汲古』第 51 号、2007 年）、同「『封神演義』第九十九回の問題」（『汲古』第 65 号、2015 年）があった。これらは、10 種の文簡本を紹介した上で、特に現存最古の舒本と、無窮会織田文庫に蔵される文簡本の間で文字の一致が多いことを指摘し、この文簡本が舒本よりも古いテキスト（祖本）に基づくものではないか、との推測を提示していた。

本研究開始前に、申請者はこれらの先行研究に依拠し、舒本と徳聚堂刊文簡本との間で部分的に校勘を行い、尾崎（2007、2015）と同様の結論に至った（岩崎華奈子「徳聚堂刊文簡本『封神演義』について」、『中国文学論集』第 46 号、2017 年）。ただし、『封神演義』版本の全体的な継承関係は依然不明瞭であり、特に舒本とその他の文繁本の関係について調査が未着手の状態であった。

また、本小説の出版背景については、舒本の序文著者である李雲翔という人物の調査を行い、彼の活動時期・地域、その他の著作等について報告していた（岩崎華奈子「李雲翔の南京秦淮における交友と編著活動」、『中国文学論集』第 43 号、2014 年）。また岩崎（2017）においても、文簡本の刊行者徳聚堂について調査した。これら以外の版本についても、編纂・出版に関与した人物の調査や、本小説出版の経緯・目的について検討したいと考えていた。

２．研究の目的

本研究の目的は次の二点である。

(1) 版本間の継承関係の解明

現存する複数の版本について、その本文を対照して継承関係を整理・考察する。これにより『封神演義』の文学的研究の基礎を固める。

(2) 『封神演義』出版背景の考察

各版本の刊行者・刊行時期・刊行地などを調査し、本小説の出版経緯や、刊行に際して想定された読者層について考察する。これは『封神演義』研究にとどまらず、明代末期に隆盛した通俗白話小説の出版背景の一例を示すものである。

３．研究の方法

本研究は次の 6 種の版本を調査対象とし、各目的に沿って研究を行った。

① **舒本**：国立公文書館（内閣文庫）蔵。現存最古の明刊本。

② **清籟閣本**：清代の文人褚人獲（1635～？）による修訂が施された、四雪草堂[3]本の一。①を覆刻し改刻したもので、版面が①に酷似。本研究ではフランス国立図書館蔵本を使用。

③ **本衙蔵板本**：封面に「本衙蔵板」と刻す。四雪草堂本の一。本研究ではハーバード燕京図書館蔵本を使用。

④ **濱文庫本**：版心下に「四雪草堂」と刻す。四雪草堂本の一。九州大学附属図書館濱文庫蔵。

⑤ **織田文庫本**：上図下文[4]の文簡本。無窮会織田文庫所蔵。

⑥ **徳聚堂本**：⑤の翻刻。巻頭に「金陵（南京）徳聚堂梓」と刻す。本研究ではハーバード燕京図書館蔵本を使用。

①～④は文繁本、⑤⑥は本文を節略し短縮化した文簡本である。

---

[1] 第一回、第二回…と回を追って物語を展開する小説の様式。現代の連載小説に似る。

[2] 文繁本は本文に節略のないテキスト、文簡本は本文を節略し全体的に短縮化したテキストである。

[3] 「四雪草堂」は褚人獲の書斎名。

[4] 各ページの上部に図、下部に本文を配する版式。

(1) 版本間の継承関係の解明

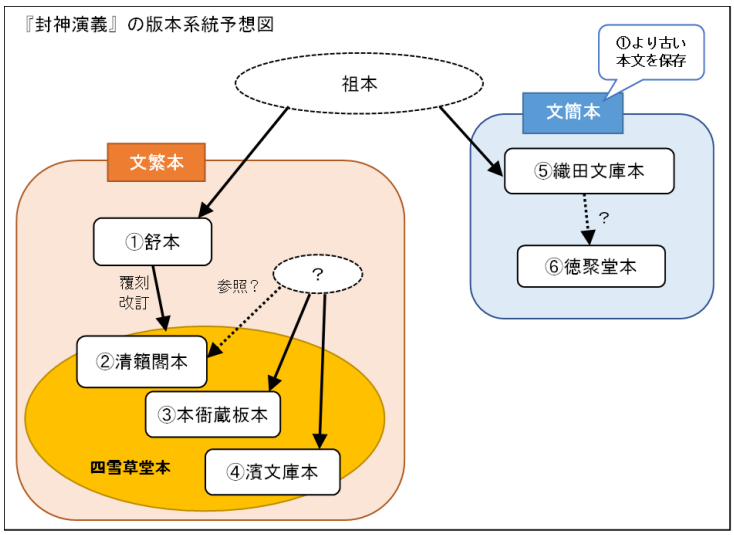
各版本の間で校勘[5]を行い、それぞれの関係を考察した。現存最古である文繁本の①を基準として、一般に四雪草堂本と呼ばれる②～④、および文簡本の⑤⑥の間で、それぞれ文字の異同（特に誤字・俗字・通字の使用やその継承・改訂の状況）を確認し、版本の先後関係を検証することとした。

(2)『封神演義』出版背景の考察

②の出版者（あるいは文人の書斎名）である「清籟閣」の調査、および②③に掲載される周之標序の検討と撰者の事績調査を行った。①に掲載される李雲翔序は、①の出版経緯を記述していることから従来の研究でも度々検討の対象となっていたが、周之標序は看過されていた。周之標の事績を調査し、序文の内容を精読することで、『封神演義』の出版にどのような狙いがあり、購買者として誰が想定されたのかを考察した。

４．研究成果

(1) 版本間の継承関係の解明



①舒本、②清籟閣本、③本衙蔵板本、④濱文庫蔵本の４種は文字の大幅な節略が行われていない文繁本であり、また②～④は一般に「四雪草堂本」と称され、明末清初の文人褚人獲（四雪草堂は書斎名）の校訂を経た同系統のテキストと認識されていた。確かにこれらの版本の間ではストーリー展開に関わるほどの差違はない。しかし文字の異同を一文字ずつ確認・検討したことで、版本ごとに特徴や傾向の存することが明らかになった。①と異同する文字の数は②③④の順に増加するが、①→②→③→④という単純・直線的に本文が継承されたわけではない。③と④はかなり近しい関係にあるが、①や②から派生したのではなく、未発見のテキストを底本としてそれぞれ成立した可能性がある。④はさらに挿入詩や回末批評を節略する文簡本的傾向があることから、上記４種のなかで最も後出の版本と考えられる。従来、版心下に「四雪草堂」と刻する④を四雪草堂系諸本の原本とする推測もあったが、再考が必要であろう。また②は①を覆刻のうえ改訂した版本だが、文字を修正する際に③④の底本を参照した可能性がある。加えて序文も①にある李雲翔序を載せず、③と同じく周之標序を「原序」として掲載する。ここから、②は外見上①に次ぐ古い版本のようであり、本文の文字も①に近いが、改訂や刊刻の時期は定かでなく、扱いに留意すべきテキストであることが指摘できる。

なお、文簡本に関しては、⑤の閲覧および複写の入手が研究期間内に叶わなかったため、検証できていない。

(2)『封神演義』出版背景の考察

『封神演義』に序文を書いた周之標という人物は、万暦 44～順治 10 年（1616～1653）の間、蘇州を中心に、特に戯曲・散曲の選集や曲譜の編纂を行っており、天啓・崇禎年間には戯曲作家や挙業書（科挙の受験参考書）の編纂者として一定の知名度を有していたこと、また彼自身も科挙の登第を目指した生員（郷試の受験資格を持つ学生）であったことが明らかになった。さらに、中国人民大学図書館に蔵される周之標『四六琯朗集』（書簡例文集）を実見調査し、周之標の書籍編纂活動における人脈を明らかにした。特に重要な発見として、本書に収録されている書簡とその評文から、周之標が万暦年間の内閣大学士申時行（1535～1614）の甥孫であったことが判明した。周之標の各種著作には申紹芳という人物が深く関与しており、彼は申時行の孫である。周之標と申紹芳の活動は姻族関係に裏打ちされたものであったと考えられる。また、『四六琯朗集』には明末の通俗文学の旗手として名高い馮夢龍（1574～1646）が申紹芳に宛てた書簡も収録されており、そこには馮夢龍が申紹芳に対して「同族に等しい恩義を承けた」ことを謝する内容が書かれていた。周之標と馮夢龍に交友関係があったことは過去の研究でも指摘されていたが、本研究の成果を踏まえれば、彼らは申紹芳を介して交流を持ったと推測される。

周之標による『封神演義』序には、①に掲載される李雲翔とは異なり、出版経緯に関する既述が一切書かれていない。周之標自身は『封神演義』の編纂や出版に直接従事しておらず、依頼を受けて序文のみを書いたものと推測される。編纂出版に関与しない人物が序文を書いた理由と

[5] 本文の文字を一つずつ比較対照し、その差違を確認する作業。

して考えられるのは、出版者が序文著者の文名に小説の販売促進効果を期待した、ということである。だとすれば、本小説がターゲットとした購買読者層は、周之標の名を知る人々、すなわち戯曲・詞曲の愛好家や科挙受験者と考えられる。序文の内容は難解で、主に五行思想を多く論じ、『封神演義』の主人公たる姜子牙に批判的である点が非常に奇怪である。当時の社会情勢や、周之標が生員であったことを踏まえれば、姜子牙批判は武装反乱に対する反対を、五行思想の多用は為政者への警告を表明したものと捉えることが可能であろう。周之標は本小説に描かれた殷周革命から、明末当時の社会問題へ意識を発展させたのである。このような政治的言説は危険も孕む。ゆえに、敢えて理解し難い文章にし、同様の問題意識を持つ読者にのみ主旨が伝わるよう工夫したのだと結論づけた。明末の『封神演義』は、歴史のドラマや神仙妖怪の空想的戦闘を楽しむ娯楽小説としてだけでなく、現実の社会問題を想起させる作品としても享受されていたのである。

また、②の封面に見える「清籟閣」の調査を行ったところ、清代の褚逢椿という人物が浮上した。生卒年は不明だが、褚人獲と同姓、かつ共に長洲（現江蘇省蘇州市）の人である。中国国家図書館に『清籟閣集』（抄本）が蔵されるほか、顧禄と共著の『煙草録』、顧禄『桐橋倚棹録』の序などの著作が確認できた。これらに記された年紀より、嘉慶～道光年間に活動した人物であることが分かるものの、詳しい生平や褚人獲との関係については不明である。実際に中国国家図書館にて褚逢椿『清籟閣集』を閲覧したが、この問題に関する情報は得られなかった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 岩崎華奈子	４．巻 18
２．論文標題 『封神演義』周之標序の検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『和漢語文研究』	６．最初と最後の頁 88～114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩崎 華奈子	４．巻 49
２．論文標題 周之標『四六カン[王官]朗集』初探 ： 編者の声望と人脈の考察を中心に	５．発行年 2020年
３．雑誌名 中国文学論集	６．最初と最後の頁 99～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4363579	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩崎 華奈子	４．巻 50
２．論文標題 『封神演義』四雪草堂系版本三種について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 中国文学論集	６．最初と最後の頁 130～148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4763189	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 岩崎華奈子
２．発表標題 中国人民大学蔵　周之標『四六カン[王官]朗集』について
３．学会等名 九州大学中国文学会第310回中国文藝座談会
４．発表年 2020年

１．発表者名 岩崎華奈子
２．発表標題 『封神演義』『残唐五代史演義伝』の周之標序について
３．学会等名 九州大学中国文学会第305回中国文藝座談会
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩崎華奈子
２．発表標題 『封神演義』周之標序の検討
３．学会等名 2019年度中国古典小説研究会大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関